

# 議会の動き

## 中部十市議会議長会を小郡市で開催

去る平成23年11月11日、福岡県中部十市議会議長会議員研修会を小郡市議会担当で、212名が参加し、小郡市文化会館大ホールで開催しました。

研修会では東京理科大学工学部機械工学科教授小林宏氏をお招きし、「高齢者・障がい者への新しいサポート技術」の演題でご講演を頂きました。



▲体に装着すると50kgの荷物を軽々と持ち上げることができる「マッスルスーツ」

講演では「21世紀に機械システムは何を実現しなければならぬのかを考えたとき、肉体的な負担からの解放に加えて、精神的な負担からの開放ではないかと考えている。自分意志で動けなくなり、誰かに面倒を見てもらうことが究極的には最も大きな精神的負担になるのではないかと考えており、このような精神的負担からの解放を実現するために、生きている限り自立した生活ができることを目標に様々な新しい人間支援システムを実現するロボット技術の研究開発を行っている」とのことでした。

中でも空気圧式人工筋肉を用いた人間の体の動きを補助する「マッスルスーツ」は、空気圧で伸縮・硬化する人工筋肉の力で肘曲げや肩の屈曲、腰曲げを補助し、重い物を持ち上げたり、支えたりすることを容易にするスーツで介護現場等での実用化が決まっているそうです。今までにない参加型の実演講演での話とあって、参加者は熱心に聞き入っていました。

※中部十市とは、小郡市・春日市・太宰府市・宗像市・古賀市・朝倉市・福津市・筑紫野市・大野城市・糸島市です。

## 議会報編集委員会の視察について

小郡市議会では、年間4回、定例会の報告として議会だよりを発行しています。

今回は、記事の取材、写真撮影から編集、レイアウトまでのすべてを議員が行っている嬉野市議会を視察しました。



嬉野市議会では広報紙を作っていくにあたり、

- 1、余白を多くとっている。
- 2、難しい専門用語は使わず、わかりやすく表現をしている。
- 3、記事にあわせてなるべく写真を掲載している。
- 4、市民の関心の高い記事を選択して掲載している。

その他にも句点で改行をすることや、写真には必ず人物

を入れて撮影することなど、市民に読んでもらうための細かい配慮や様々な工夫がなされていました。

小郡市議会は、議会基本条例で議会活動の情報発信を積極的に行うよう定めており、今後も調査研究を重ね、市民が親しみやすい広報紙づくりを行なって参ります。

## 新たな地域自治に関する特別委員会を設置

昨年4月に公表された第5次小郡市総合振興計画に新しい地域自治の形が示されました。

全国的に地域コミュニティのあり方が模索されていますが、計画の中では、小学校校区を単位としてコミュニティを形成していくことを目指しています。

現在、市は小学校区単位で区長会を中心とした懇談会を開いて、地域自治に関する説明を行っています。

地域コミュニティは、将来の地域自治の形を作る重要な案件であり、本市議会でもその目指すべき方向等を調査するため、12月19日に特別委員会を設置しました。